



# THE NEWS

# TOKYO NODAI

## 東京農業大学

世田谷キャンパス 大学本部/大学院・応用生物科学部  
地域環境科学部・国際食料情報学部・短期大学部  
厚木キャンパス/大学院・農学部  
オホーツクキャンパス/大学院・生物産業学部

編集/東京農業大学学長室

発行/東京農業大学出版会

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

# タイで第14回世界学生サミット

第14回世界学生サミットが9月19、20日にタイ国カセサート大学(KU)カンベンセンキャンパスで開催され21カ国が参加した。国外での開催は2012年度にミシガン州立大学で開催して以来2回目となる。本学からは世界学生フォーラムメンバー(ISSF)を含む学生15人が1週間前から現地入りし、連日運営スタッフと議論を重ね準備を行った。

## 21カ国の学生が討論

世界学生サミットは東京農業大学が中心となり、海外協定校をはじめとして各国から学生、教員が集まり日頃の学習(研究)成果をプレゼンする。世界学生サミットは、学生



一堂に会した参加学生教職員



記念品を交換する高野学長(左)とアタモンクーンKU副学長

高野克己学長とアタモンクーン副学長(KU)の挨拶に始まり、チナウオン農学部長(KU)の基調講演に続き、21カ国のプレゼンとして討論が展開された。本

## 農学部伊勢原農場棚沢圃場 おいしい新米収穫!!



収穫から精選まで全て実習で行っている

暑い夏が終わり、秋風が吹きはじめた9月中旬農学部伊勢原農場の棚沢圃場では稲刈り実習が始まった。棚沢圃場で一番早く収穫するのは、「あきたこまち」。次に、「コシヒカリ」、厚木市推奨米「キヌヒカリ」、飼料米の「モミロマン」、黒米やもち米と収穫が続く。10月中旬から厚木キャンパスでは新米フェアが行われており、棚沢圃場で収穫した「あきたこまち」「コシヒカリ」「キヌヒカリ」を1週間ずつ新米として生

協食堂で味わうことができる。なくなり次第販売終了となる早い者勝ちの新米をいち早く食べられるこの時期を厚木キャンパスの学生も毎年楽しみにしている。

【計量・袋詰め】  
選別した白米を計量し、袋詰めし出荷。(伊勢原農場)

【参加21カ国】  
アメリカ、ブラジル、カンボジア、カナダ、中国、ドイツ、フィリピン、フランス、インドネシア、イギリス、韓国、マレーシア、モンゴル、オランダ、ペルー、台湾、タイ、タンザニア、ウクライナ、ベトナム、日本

## 東日本支援プロジェクト 相馬

福島県相馬市での震災復興プロジェクトは3年半が経過し、復旧段階から次の本格復興である第2ステージへ。甚大な津波被害を受けた水田のうち、本年度新たに200haが復旧第2ステージへ。今年度、相馬の復興水田で収穫された「そうま復興米」を相馬市の全中食関係者約4000人に配布し、「皆で食べて復興を応援しよう!」(国際バイオビジネス学)という企画を行っている。科教授 門間敏幸

支援活動は相馬の新たな農業創造に向けてこれらが本番である。特に、新たに設立された農業法人の経営確立のための支援、相馬農業の将来の担い手の育成、さらには放射能汚染地域の農業の再構築が緊急の課題である。普及・実践を最優先し毎年現地で開催して

また、本年8月末には東京農業大学全学応援団リーダー部が相馬市で合宿を行い、相馬高校、中村二中で演舞を行い相馬の復興を応援した。相馬復興プロジェクトの報告会は、研究成果の普及・実践を最優先し毎年現地で開催して



### さらなる研究フィールドを創出 加速する学術・連携協定

#### ペラデニア大学と

東京農業大学は7月22日、海外30校目となる学術協定を締結。ペラデニア大学はスリランカの古都キャンディにある総合大学で、1942年に設立されたセイロン大学を前身とし、農学部（農学科と畜産学科）からスタートしたスリランカ国内で最古の農業教育機関。本協定により、学生、教職員との交流、共同研究などの進展が期待される。

#### 茨城県と

7月17日、日本の食料・農業・農村を巡る諸課題に適切に対応し、活力あ



人類がハチミツを利用してきた歴史は古く、スペインにあるアラニア洞窟の壁画（約1万年前）に蜜蜂の巣から蜜をとる女性の姿が描かれている。

近年の健康志向の高まりとともに、ハチミツに含まれているブドウ糖、果糖そして各種ビタミン、

個性豊かな地域社会の形成と発展及び人材の育成等を目的とし、茨城県と連携協定を締結。県単位での協定は本学では初めて。橋本茨城県知事は「特に県北地域の活性化、農業生産物のブランド化の貢献に本学の教育研究力を大いに期待しており、具体的な内容は連携推進委員会にて検討中。現在予定している活動は、県北地域ビジネス創出支援事業への協力、県から講師を派遣する特別講義、東京農大オープンカレッジ企画への参加、県内の酒蔵見学ツアー、学生（特別留学生）の研修受け入れ」。

#### 木島平村と

7月28日、長野県木島平村との連携協定を締結。同村は県北部に位置し、奥山里山、水などを活かした日本の文化を日本全国、世界に発信する「農村文明」創世を推進している。本協定は、むらつくり、人づくり、自然環境産業、地域振興、自然及び伝統文化の発展、森林等地域資源の保全、森林資源を活用した再生可能エネルギーの創出等について相互協力するの目的だ。8月には農学部共通科目「農業ビジネスデザイン（一）」の学外農業体験実習を実施し、学生たちは村に宿泊し9軒の農家、関連企業に分かれての実習に汗を流し、村民と交流をはかった。

#### 成城学園と

8月20日、成城学園が設置する成城幼稚園の環境教育および園庭再生計画に関して連携協定を締結。同幼稚園には自然の豊かな起伏をいかした緑豊かな園庭があり、この園庭を園児の体力や運動能力を養い自然と共生する感覚を学ぶ場として、より一層安全で快適な場へと再生するために本学造園科学科が協力要請に応えたものだ。山崎正也さん（自然環境保全学研究室4年）は「成城幼稚園における園庭整備のデザイン設計（卒論）」として、成城幼稚園教員と定期的なワークショップを実施。また増山信晃さん（同研究室4年）は「園庭を活用した環境教育プログラムを立案」。

#### オホーツクから発信 生物産業学部の取り組み

〔茨城県阿見町〕生物産業学部は5月16日、農業の6次産業化に向けた包括連携協定を結んだ。同学部にとつて北海道外の自治体との連携協定締結は初めて。6次産業化へ向け学生の農作業体験を通して人材育成や、阿見町の特産品などの地域資源を活用した加工品の開発にオール農大で取り組む、地域再生に寄与していく、包括連携先の株式会社ノエビアと共同運営するオホーツク地域連携センターが北海道北見市にある同社研究所内に開所した。同所ではオホーツクの資源を活用した食品や化粧品の商品開発研究に取り組み他、市民講座も開かれる。化粧品に関する植物資源については実用性のある研究が求められており、成果をあげオホーツクから世界に発信する。

#### 〔北洋銀行〕6月30日、

農林漁業の6次産業化などに向けて包括連携協定を結んだ。全道にネットワークを持つ北洋銀行との連携を活用し、産学官と金融機関の連携を強め、6次産業化に関する情報交換や大学発のベンチャー事業、地域企業の応援など地域農業や地域の活性化、起業支援に結び付ける。

#### 〔日本農業経営大学校〕9

月30日、国内農業を担う人材育成などに向けた包括連携協定を結んだ。経営力に重点をおいた同大や人材育成などで連携、実学主義の実践性を高め

### 「食と農」の博物館だより

暑い夏が過ぎあつたという間に収穫祭の季節。今年も「食と農」の博物館の開館10周年である。企画展示も開館10周年記念展示と銘打ち、前半（3月28日～9月15日）は「農と祈り―1田の馬、神の馬らぬものであること―」がテーマである。後半の「10月1日」翌年3月15日「パイオニメックスを超えて―！昆虫などの生き物や自然に学ぶものづくり―」展を開催中。前半の展示は「過去の農への想い」を具現化したものであるならば、後半の展示は我々の「未来への農への想い」を形にしたもの。どちらの展示も自然との共生を心に砕いてきた日本人の「農への想い」が、並々ならぬものであることに気づかされるものである。古来より八百万の神々と共に暮らしてきた我々日本人としては、「飛躍した未来」ではなく「懐かしい未来」を求め「食と農」の博物館にはないだろうか。

#### ツチクジラ

骨格標本

### 厚木の丘に

### 「農舞台」新学生会館が着工

厚木キャンパス学生会館新築工事の地鎮祭が8月6日、大澤貫寿理事長、高野克己学長をはじめ大

学関係者、設計監理を担当する株式会社佐藤総合計画、施工を担当する戸田建設株式会社が参列して行われた。大澤理事長は「平成10年の農学部改組、キャンパス移転から16年が経過した。学生の声、強い要望に応えて、キラウソジ」、「アグリキッチン」、「アグリテラス」、「アグリ広場」といったイメージを具現化する造地下1階地上4階建て、延べ床面積は約4400㎡である。1階



ミネラルやアミノ酸等の栄養素が注目され、健康食品としての需要も増えている。また、ハチミツは医療にも利用され、欧米各国をはじめ日本でもいくつかの医療

### ハチミツの品質

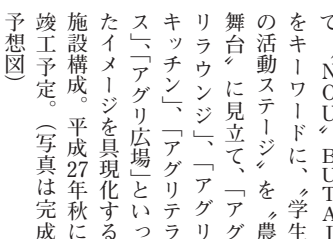
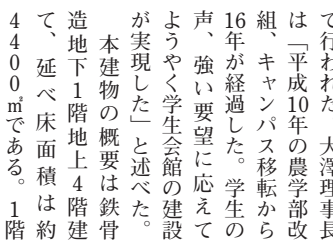
短期大学部部長 安藤達彦（醸造学科）

ハチミツは、蜜蜂が花から集めた花蜜に蜜蜂の唾液腺から分泌されるインベルターゼ等の酵素

ハチミツは食の安心・安全、品質の保持、効能効果の安定化、そしてブランド保護などの観点から、ハチミツの種類や産地特定の方法が、科学的

ハチミツは食の安心・安全、品質の保持、効能効果の安定化、そしてブランド保護などの観点から、ハチミツの種類や産地特定の方法が、科学的

ハチミツは食の安心・安全、品質の保持、効能効果の安定化、そしてブランド保護などの観点から、ハチミツの種類や産地特定の方法が、科学的





境界領域での新しい発見や

価値の創造を生み出す

平成26年度先端研究プロジェクトに採用された「消化管幹細胞を用いた新規培養系の確立と消化管機能解析」について、研究代表者である岩槻健准教授(食品安全健康学科)に採択者の声を寄せていただいた。

我々の研究グループと大の特徴を生かし、境界領域において新しい発見単にご紹介する。当グループは、専門領域の異なる5人の教員で結成されている。プロジェクトのご意見番である清水誠教授のほか、40代半ばの脂の乗った研究者である。さまざまな専門領域を持つ教員が在籍する東京農

大の特徴を生かし、境界領域において新しい発見単にご紹介する。当グループは、専門領域の異なる5人の教員で結成されている。プロジェクトのご意見番である清水誠教授のほか、40代半ばの脂の乗った研究者である。さまざまな専門領域を持つ教員が在籍する東京農



岩槻健准教授(左)と研究メンバー

消化管に不具合を生じる人が多いが、本研究を通じて消化管の炎症を軽減したり、消化管の再生を促したりする食品成分が見つればと思う。将来は本研究を発展させ、東

京農大に国の研究拠点を築かれることを願っている。岩槻准教授以外のメンバーは、清水誠教授(栄養科学科)、高橋信之准教授(食品健康安全学科)、室田佳恵子准教授(近畿大学理工学部)。

夏季短期留学プログラム 世界を肌で感じ、挑んだ夏

平成26年度夏季短期留学プログラムが8月中旬(9日)中旬にかけ各国で実施された(別表)。アマゾニア農業大学ではファームステイ、ソコイネ農業大学では壮大な景色の中で移動も。コーネル大学でアイスクリーム製造をテーマに実習した学生たちも目を輝かせた。語学研修にとどまらず、各国の農業系・生物



海外での農業実習風景

とともさまざまな異文化交流ができることから、満足度の高いプログラム

Table with 3 columns: 国名, 大学名, プログラム名. Lists international exchange programs for various countries like Canada, Philippines, Thailand, etc.

活躍する卒業生

遺伝子発見は、夢への一歩

農業生物資源研究所 宇賀 優作氏

私は干ばつに強いイネの品種改良をするために、つくば市にある農業生物資源研究所で



研究現場の様子

研究をしています。私のアイデアは、根がより深く張れば、土の表面が乾いても地中深くの水分を吸収し、干ばつに強くなるのではないかと。6年かけてやっ

と根を深くする遺伝子を発見し、その遺伝子を交配によって干ばつに強い水稲に入れたところ、干ばつに強くなりました。その研究成果がTBSテレビ「夢の扉」という番組で、今年4月に「遺伝子発見!」1カ月水を

与えなくても育つコムメ開発! 干ばつに強いイネで、食糧難から世界の子供たちを救え! というタイトルで取り上げられました。

番組の放送終了後は、国内外の研究者や一般の視聴者の皆さんから激励や問い合わせをたくさん頂きました。海外に目を向けた研究にもかわらぬ、多くの方に興味を持っていただいたことをうれしく思いました。

人類が宇宙に行くこの時代になってもまだ発展途上国など海外では、雨水だけでイネを栽培している水田が多く、その規模は日本の全水田面積の約14倍にもなります。近

年の地球規模での環境変動に伴って、このような農地で干ばつが頻発しており、コムメを収穫できないリスクが高まっています。できるだけそのリスクを小さくするため、私は干ばつに強いイネの開発を目指しました。

私がこの研究を10年以上やってきたのは、誤りがあるかもしれません。私に東京農大の国際農業開発学を選んだ理由は、途上国の農業に少しでも貢献したいという思いからです。学生時代には、バックパッカーをしながら各国の農業も見学してきました。その中で、小学校にも行かず家族のために頑張っているインドの

厚木キャンパスに センターイレブ

厚木第二講義棟1階に10月1日、センターイレブンが開店したII写真。かねてからキャンパス内のコンビニエンスストアの設置の要望が多く寄せられていたが、このたびは教員後援会からインフラ整備に対する寄付金をいただき、開店が実現した。若者に人気のフライヤー商品をはじめ、手巻きおにぎりやお弁当、サンドイッチ、スイーツなど街中の店舗と同様のしなごろえ(酒・タバコ)。

受賞

- 緑の環境デザイン賞25周年記念企画の環境デザイン賞/維持優良賞/4月23日/植物学研究所(宇賀優作氏)
一般社団法人情報処理学会/喜安記念賞/6月4日/中村勇教授
海洋環境と水資源の持続的利用/水産省/6月17日/中村勇教授
第31回日本食糧学術大会/6月17日/中村勇教授
第31回日本食糧学術大会/6月17日/中村勇教授
第31回日本食糧学術大会/6月17日/中村勇教授
第31回日本食糧学術大会/6月17日/中村勇教授



センターイレブの店内様子



